

開かれた学校づくりにむけての取組

松本 清治

Working towards Schools Open to the Community

MATSUMOTO Seiji

(Received August 6, 2014)

キーワード：開かれた学校、家庭・地域との連携、地域人材活用、学校運営

はじめに

子どもの「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中でよりはぐくまれるものであり、学校のみではぐくめるものではない。加えて、近年の社会の変化に伴い、多様化・複雑化するニーズに学校の力だけで対応していくことは困難となっており、学校が地域社会においてその役割を果たしていくためには、地域の人々の支えが必要となっている。また、学習指導要領総則においても、「学校がその目標を達成するため、地域や学校の実態等に応じ家庭や地域の人々の協力を得るなど、家庭や地域社会との連携を深めること」とされている。

そこで、今、地域に開かれた学校づくりが求められている。すでに多くの学校では、地域に向けた情報の発信や、学校施設の開放、ゲストティーチャーや学校支援ボランティアの取組など、開かれた学校づくりを進めている。しかし、このような活動の中には、教員個人の取組になっている場合や学校と地域の双方が成果を実感できないなど、地域との組織的、継続的な結びつきが十分できていない場合もある。地域に開かれた学校となるためにも、学校と地域がそれぞれの思いや願いを共に話し合い、子どもたちの課題を解決するために力を合わせて取り組む信頼のもとでのつながりが大切になる。そうした中で、計画的・継続的に地域資源を活用した授業や体験活動を実施したり、地域行事への子どもたちの参画を実現したりしていくことにより、開かれた学校づくりが加速するものと期待できる。

そして、開かれた学校づくりの成果として次のような事柄が期待できる。

- 子どもたちの「生きる力」をはぐくむことができる（地域の望む子ども像の実現）
 - ・多様な人々との交わりの中で、子どもの社会性の育ちなどが生まれる。
 - ・地域の人々に支えられて学んでいくことで、地域への愛着が芽生える。
- 教職員、保護者、地域住民等がともに成長していく（地域の教育力向上）
 - ・地域の人々との交わりで得られる多様な経験が、教師としてもっと豊かな指導力の発揮につながる。
 - ・教育や子どもの成長に責任を持つ人たちが増えるプロセスとなる。
 - ・様々な関係者との関わりを通じて、学びあいながら人間的な成長を遂げていく。
- 学校を核として地域ネットワークが形成される（地域の活力向上）
 - ・学校への関わりを通じて、地域の人々同士がつながり、子どもが学校を卒業した後も保護者が地域に関わっていく流れができれば、地域の活力もあがっていく。
- 地域コミュニティの基礎力が高まる（地域の礎の構築）
 - ・地域の大人たちが、学びあいを創造していくプロセスを経て、当事者意識をもった市民として、地域づくりの担い手となっていく。
 - ・地域全体としての「生きる力」の高まりや平素からの学校と地域の人々の強いつながりが顕著になる。

1. 学校開放で進める開かれた学校づくり

従来、学校が授業を開く場合、決まった時間だけ保護者を受け入れる方式が取られていた。しかし近年は学校を一日中または一定期間開放し、子どもたちの普段通りの生活を自由に見学してもらい取り組みが多く見られるようになった。この取組は、公教育としての説明責任を果たし、対象を保護者だけでなく、地域の方々まで広げることで、地域に開かれた学校づくりを大きく進めることが期待できる。実際に来校された地域の方の方は、地域の民生委員や見守り隊の方々等、学校外で子どもに深く関わっている方が多く、このような方々に、学校生活を参観していただくことで、学校との信頼関係の構築に期待できると考えられる。また、保護者にとって、関心のある授業を選んで参観できるようになり、休み時間の過ごし方や給食、掃除の時間の様子など、子どものありのままの学校生活が分かり、家庭での教育を見直すきっかけにもなると考えられる。ほかにも、授業開放のメリットは、「学校教育に対する保護者や地域の理解が深まる」「学校と家庭、地域が一体となって子どもを育てる機運づくりができる」「学校評価が進み、教育内容や指導方法の工夫改善が図られる」ことが考えられる。

また、授業開放では、必ず授業についてのアンケートを実施し、その結果を広報するとともに、教員の授業改善の貴重な意見としている。

《授業参観風景》



《授業参観アンケート例》

授業参観アンケート

平成 年 月 日 () 曜日

今日の授業について、あてはまる番号を1つ選び、○を付けてください。

(4…そう思う。 3…ややそう思う。 2…あまり思わない。 1…思わない。)

I () 年 () 組 () の授業について

番号	質問項目	評価	メモ
1	分かりやすい授業だった。	4 3 2 1	
2	先生は、丁寧に教えていた。	4 3 2 1	
3	学習のルールが徹底しており、落ち着いた雰囲気の中で学習活動が行われていた。	4 3 2 1	
4	分かりやすく楽しい授業になるよう、いろいろな工夫をしていた。	4 3 2 1	
5	授業の内容を、黒板に分かりやすく書いていた。	4 3 2 1	
6	先生の声の大きさや話す速さはちょうどよかった。	4 3 2 1	

II 最近の家庭でのお子さんの様子はいかがですか。

番号	質問項目	評価
1	宿題があるときは、きちんと取り組んでいる。	4 3 2 1
2	集中して家庭学習や宿題に取り組んでいる。	4 3 2 1
3	起床時間など、規則正しい生活をしている。	4 3 2 1

III 授業をもっとよくしていくために御意見があれば、お書きください。

.....

.....

.....



ホームページ

Eメール

授業参観



授業参観
アンケート

授業参観アンケート

ご協力ありがとうございました

月 日（金）は、今年度最後の授業参観でした。お忙しい中、たくさんの保護者の方にご来校いただき、その上、アンケートにもご協力いただきありがとうございました。

つきましては、授業参観後にお寄せいただいたご意見・ご感想を、今後の本校教育に生かしていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

下記にアンケート結果をまとめましたので、ご一読くだされば幸いに存じます。

※ 本年度も参観日（自由参観日）・学校行事ごとに保護者や地域の方にアンケートをお願いしてきました。生徒のがんばっている点や よさ、あるいは今後の課題等についてのご意見やご要望等をお寄せいただきました。ありがとうございました。

アンケート回収数：54

評価欄の見方 A: そう思う B: やや思う C: あまり思わない D: 思わない

No.	評価項目	評価(%)			
		A	B	C	D
1	先生は、生徒のやる気の起こる授業を行っている。	51	43	6	0
		34	60	4	2
2	先生は、一人一人を大切にした授業をしている。	43	48	9	0
		36	54	10	0
3	先生と生徒との間に温かい人間関係がつけられている。	31	55	14	0
		30	62	8	0
4	生徒は、意欲的に授業に取り組んでいる。	40	49	11	0
		27	67	6	0
5	生徒は、よくあいさつをしている。	24	76	0	0
		25	62	13	0
6	校舎は、清掃がよくできている。	42	58	0	0
		44	54	2	0
7	校舎内は、安全面の配慮がなされている。	37	54	9	0
		34	62	4	0

上段：第1回参観日評価結果

下段：今回の参観日評価結果

《授業参観アンケート自由記述欄の意見》

- ◇1年生の数学の授業でしたが、とても分かりやすい内容だったと思います。説明のペースも丁度よい速さだったと思います。生徒が発表する時の声が小さかったのが残念です。
- ◇みんなまじめに先生の話の聞いたり、ノートへ書き写したりしている様子は素晴らしいです。
- ◇社会科の授業でしたが、ビデオを交えてとても分かりやすく授業がなされていました。生徒たちが静かに、一生懸命勉強していてよかったです。
- ◇久しぶりに見た中学校の授業というのは、先生が一方向的に話をし、答えを教え生徒はノートをとるだけなのかなと思いました。
- ◇発表の音が小さく聞きづらかったように思います。もう少し元気があればと思います。勉強はみんな真剣にがんばっていたと思います。

2. 地域の特性を活かした開かれた学校づくり

開かれた学校づくりの実践においては、単に学校を開放するだけでなく、保護者や地域住民がともに教育活動に参加することにより、体験の共有化を図ることも大切になる。保護者・地域住民は、多く子どもたちと接する中で、わが子や近所の子どもたちだけではなく、様々な子どもたちのもっているよさや課題に気付き、子ども理解の視点を獲得する。また、保護者・地域住民は1つの行事や授業をとともに創っていく過程の中で、教職員が担っている役割や苦勞、努力を知るとともに、「今後、学校に対してどのような協力ができるか」といった自らの役割を発見していく。このような体験の共有化を図るためには、言うまでもなく、具体的な教育活動に保護者・地域住民が直接かかわることができる場の設定が必要である。例えば授業にしても、単なる授業参観ではなく、ゲストティーチャーや学習支援ボランティアのような授業参加・参画型の活動を仕組んでいくことが重要である。そこで、この章では地域や保護者の方が授業に参加・参画する取組について述べていく。なお、ここに取り上げた実践事例は、筆者が下松市教育委員会指導主事時代に直接指導等に携わった事例である。

2-1 自然を活かした実践事例

A小学校は「地域の特色を生かしたふれあい体験活動」を特色としてあげている。校区には、自然豊かで海と小高い丘があり、野鳥が数多く生息する環境をいかして、愛鳥活動を継続して行っている。毎年5月に行われる春季親子探鳥会では、日本野鳥の会から講師を招き、児童・保護者に加え学校評議員や地域住民も参加し、校区内の野鳥を観察している。ただ単に美しい鳥の姿を見るだけではなく、その食性や生活の様子を注意深く観察することで、鳥への理解とともに地域の自然への思いも高まってきている。そして、保護者地域住民は子どもたちとともに活動することで、子どもたちの学びや驚き、喜びを実感し、これらにかかわる活動の様子を学校だよりを通じて保護者・地域住民に伝えることで、地域の自然への関心を共有することが実践されている。そして、児童・保護者アンケートでも愛鳥活動やふるさと学習で、「地域の方やゲストティーチャーと一緒に活動することが楽しい」と全ての児童・保護者が肯定的に回答している。また、学校正門に至る坂道の斜面には階段状のツツジ園があり、この剪定を児童・保護者・地域住民で毎年行っている。地域住民にとっては、子どもの数が毎年減少する中で、寂しさを感じながらも、自らが学校とともに歩んできたという思いが強く、毎年、数多くの人々が参加している。この学校のように自然豊かな地域にある学校は、地域とのかかわりが密接で、学校と地域がともに活動する機会が多く、学校だけではできないことを、地域住民の力を借りて共同して行うことが日常的に長年、行われてきたとい



う経緯がある。保護者・地域住民も、学校の手伝いではなく、主体的に教育活動にかかわり、学校教育の一端を担う関係となっている。学校に対する愛着が深まることで、今後さらによりよい学校づくりを保護者・地域住民と一体となって進めていく体制が強固なものになってきている。

2-2 地域と協働したボランティア活動の実践事例

B中学校では、昨年度の学校評価の結果から保護者・地域住民への情報提供やコミュニケーションが十分に行われていないことが課題として挙げていた。そこで、本年度は重点目標の1つに「地域住民との信頼関係づくり」を掲げ、地域の育成会や福祉施設等との連携を図りながら、生徒や教職員が地域行事にボランティアとして積極的に参加していくこととした。地域住民とのふれあい活動や体験活動をとおして、生徒に郷土を愛する心や思いやりの心を育み、道徳的実践力を高めるとともに、地域住民と相互に情報を交換し合うことで、地域の声を大切にした開かれた学校づくりをめざした。校区内には、地域社会で子どもの健全育成をめざして活動する団体があり、公民館やPTA等と連携して様々な地域行事にかかわっている。この活動の中で、同校の生徒対象に地域行事のボランティア募集が行われている。実施前には育成会の会員が来校し、子どもに具体的なボランティアの内容について説明を行い、PTA役員との協力を得て、当日の役割分担や準備等が決定される。地域の福祉施設における福祉体験や通年で活動する伝統芸能への参加等も合わせると、毎年10回のボランティアの機会があり、ほぼ全校の子どもが参加することとなる。さらに、教職員も1人1回は地域行事に参加するようになり、地域住民とふれあいながら学校情報を提供したり、地域での生徒の様子や地域住民の思いを把握したりすることで、教職員と地域住民との距離が縮まってきている。

また、これらの活動は学校だよりやホームページ等で広く紹介するとともに、会議やPTA総務委員会等で情報交換を行い、改善に努めている。このように様々な地域活動にボランティアとして参加する子どもが多く、子どものボランティア活動への参加意欲は高い。子どもが活動する様子に直接地域住民が接することで、学校や生徒に対する理解が深まりつつある。また、できるだけ多くの教職員が地域の活動に参加することで、地域住民とのふれあいの機会も増加し、相互に情報を交換し合う場面も多くなってきた。顔を合わせた直接のコミュニケーションは、日ごろ伝えきれないことがらを伝えることができるだけに、教職員と保護者・地域住民が互いに課題を共有し、連携・協働の関係づくりを図る上で極めて有効である。

以下は、その他の地域の特性を活かした実践の取組を紹介する。

《農業体験》



《昔遊び》



《伝統芸能》



《水墨画教室》



《しめ縄づくり》



《盲導犬の授業》



3. 保護者・地域との情報共有による開かれた学校づくり

近年、学校が抱える課題や問題は複雑化・多様化しており、学校の努力だけではその解決は困難となってきた。また、学校のよさや特色は、保護者・地域住民等から認められて初めて輝きを増す。開かれた学校をめざすには、保護者・地域住民からの理解と協力を得ることが不可欠であり、保護者・地域住民と連携・協働して学校づくりを進めることで、その効果は大きくなる。学校のことが分かってはじめて、保護者・地域住民には、「一緒にやろう」「ここをこうすればもっとよくなる」「自分のできることで協力しよう」といった、共に学校づくりをしていこうという思いが生まれてくるのである。

また、提供される学校情報が、学校にとって都合のよいことや成果ばかりでは、保護者・地域住民が学校と連携・協働して行動を起こそうという気持ちは生まれてこない。むしろ、課題や問題、困っていること、学校だけではできないことなど、学校の悩みも含めて、思いや願いを率直に伝えることが大切である。

3-1 学校理解のための「情報の共有化」

保護者には、その年、学校がどのような目標や方針で教育活動を行うのかという情報を年度当初の学校だよりや懇談会、PTA総会等で伝えられる。個々の教育活動は、すべて教育目標や教育方針に基づいて行われるものであり、学校と保護者が同じ課題意識をもち、協力して児童生徒の教育に当たっていくためには欠かせない情報である。具体的な教育活動については、その内容やスケジュール、準備や活動の様子などが情報提供されているが、それのみにとどまることなく、学校の教育方針や活動のねらい等を伝え、その教育活動の趣旨を理解してもらう努力が必要である。

さらに、活動の成果や結果については、これまでも提供されてきた情報であるが、その活動ができあがるまでのプロセスはあまり情報として提供されてこなかった。保護者・地域住民の協力を得るためには、逐次、状況を伝えていくことが大切である。

また、学校の課題や問題等についても情報提供し、その解決に向けた学校の取組やその結果についても、保護者・地域住民と情報を共有することが重要である。学校が気付かない情報を取得し、保護者からの協力や支援を得る契機ともなり、学校の問題発見や問題解決にもつながる。

3-2 信頼形成のための「課題の共有化」

学校の重点目標や具体的取組については、年度当初だけでなく、継続的な情報発信が望まれる。保護者・地域住民は、学校における日々の教育活動を常に観察しているわけではないことから、途中経過の情報に触れることなく、いきなりアンケートの回答を求められても困るだけである。

学校の教育活動の最も中核をなすのは授業である。保護者に対しては授業参観が一般的に行われているが、最近では第1章で述べたとおり、保護者による授業評価アンケートを実施している学校も多い。事前に授業に関するねらいや学習活動などの情報を提供した上で授業評価を実施することにより、授業によって何をねらい、子どもたちにどのような力を付けようとしているのかが理解される。また、家庭学習や学習習慣の重要性についても、授業との関連性を示すことで、保護者が学校と課題を共有することにつながり、学校と家庭が連携して確かな学力の向上に取り組むことができる。

また、学級懇談会や地域住民との懇談会等については、子どもたちや教育活動の様子を共通の話題として、教職員や保護者・地域住民がそれぞれの思いや願いを直接伝え合うことで相互理解を深めることができ、これを重ねることで信頼感が培われていく。立場により意見の相違があることは当然であり、これを完全に一致させることは難しいが、むしろその違いがあるからこそ、相互に連携・協働する必要性もあるのである。

3-3 学校だより等による情報提供

ある学校での「学校評価・情報提供に関する意識調査」の中で、「あなたが学校についての情報を得るために、どの手段をどの程度頼りにしていますか」という質問に対し、保護者・地域住民の96%が学校だより及び学年・学級だより等を頼りにしていると回答している。知りたい学校情報としては、行事予定、学校行事や学校生活の様子、子どもの学習成果や作品、学力向上への取組や学力の状況、学校の課題が90%を超え、その他、多方面に渡って情報を入手したいという保護者・地域住民の多様なニーズを知ることができた。

また、一部の学校では、外部アンケートの結果から、学校だより等の情報発信による期待度が昨年度より増していることが確認できた。さらに、学級通信等により、各学級の具体的な学習活動や学校生活全般について、さらに詳しく知りたいという要望も見られた。

以上のことから、学校だより等の通信メディアによる情報提供への期待は大きく、それに応える努力が一層求められている。

学校だよりや学年だより、その他各種たよりを定期的に発行し、保護者・地域住民等へ配付している。また、ホームページによる公表も行い、アクセス数が増加している。

ある小学校の実践では、学校だよりや学校評価リーフレットで今年度の重点目標や具体的取組に関する情報提供を行った上で教育活動を進め、12月には保護者・地域住民を対象に外部アンケートを実施した。実施後、アンケート結果を集計し、分析した上で、今後の取組についての方針を決め、学校だよりやホームページを通じて、保護者・地域住民に公表している。

その際学校だより等の紙面作成において留意する点は、次のとおりである。

- 各担当から幅広く情報を入手し、分かりやすい言葉で伝えたい情報を的確に伝える。
- 図式化やカット、写真を取り入れ、読みやすい紙面にする。
- 保護者・地域住民の意見を聞き、ニーズに対応する。

また、提供した情報に対する感想や意見を求め、教育活動実施上の参考とすることが大切である。こうした取組による学校の利点は、次の点である。

- 教育課題や取組状況を明示することにより、保護者・地域住民との連携・協働体制を強化することができ、教育力の向上につながっている。
- 保護者・地域住民に学校の状況が伝わり、教育活動に対する意見や支援を申し出る保護者・地域住民が増えてきている。
- 子どもの活躍を取り上げることで、子どもたちは自信を深め、積極的な活動が見られるようになってき

ている。

そして、保護者・地域住民にとっての利点は、次の点である。

- 学校生活の様子がよく分かり、安心して子どもを学校へ送り出すことができる。
- 学校の課題解決の取組を知った上で、家庭でも共通して実践・指導をすることができる。
- 学校行事を確認し、地域行事との関連を図ることができる。

一方、留意点としては、次のような点を指摘することができる。

- 紙面による情報提供のみに頼らず、会議等、直接対話による生の意見交換も大切にすること。
- 情報収集のネットワーク拡大を図り、リアルタイムな情報提供に心がけること。
- 配布の拡大を図ること（諸会議での配布、自治会回覧の活用、公共施設への設置等）。
- 個人情報保護に十分に配慮すること。

《学校の教育目標等を記載した学校だより》

学校評価で、よりよい子ども・学校を！

本校では、学校教育目標・チャレンジ目標等に基づいた教育活動の様子を児童・保護者及び教職員が一体となって振り返り、改善を加えています。そして、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざし、信頼される学校づくりに全力をあげています。

本年度は、昨年度の取組みの上に立って、以下のことを実践します。

- （１）実践項目をより具体的にし、調査・実践に努めます。
- （２）その取組み状況を公開したり、機会をとらえて発表したりし、意見を聞きながら改善に努めます。

12月に教育活動についてのご意見をお聞きするアンケートを行いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

本校の学校教育目標

ふるさとを愛し、夢・目標に向かって
主体的に生き抜く児童の育成

本校のチャレンジ目標

学校・家庭・地域でも明るいあいさつのできる子になろう

学校教育目標、チャレンジ目標について、具体的な子ども像を全教職員で話し合い、共通理解の上で実践しています。

その話し合いの中で生まれた3つの合言葉

Challenge	(挑戦)	} 意欲的に、機会を逃さず、実践します！
Do	(実践)	
Chance	(機会)	



重点課題

学力の向上



具体策として

- （１）授業評価を取り入れた、授業改善を図る。
 - ・基礎学力の定着と分かる授業をめざす。
 - ・反復学習の時間を確保する。
- （２）生活習慣の確立を図る。
 - ・学習への心構えを保護者と共に考えていく。
（早寝、早起き、朝ごはん、お手伝い、食育等）
 - ・家庭学習の充実を図る。

皆様への感謝、ご意見をお待ちしております。また、ホームページも是非ご覧ください。

また、学級だより等に返信欄を設け、双方向に情報交換できるようにした取組も見られた。

学校情報を保護者に確実に伝えるため、後に示しているように、返信欄を設けることとした。そして、返信欄の記述をとおして保護者の意見や要望等を把握するとともに、それらに対する回答を速やかに返信することとした。

保護者から寄せられた意見や質問は、毎回まとめて印刷し、全教職員に配布することにしており、こうした取組を継続する中で、地域・保護者の声を活かし、学校の教育活動に必要な改善を加え、その円滑な推進が図られている。

提供する情報は、子どもの生活習慣に関するもので、例えば、服装や身だしなみに関する内容のほか、携帯電話に関する内容や健康安全に関する内容、行事に関する内容など、時期をとらえた内容の発信に心がけている。特に服装や身だしなみに関する内容については、多くの質問が寄せられ、学校は生徒指導だよりをとおして、それら質問に迅速に返信をしてきたところである。

返信は当初8割以上の家庭から寄せられ、多くの家庭に確実に発信できていることがわかってきた。また、学校と家庭とが相互に意見を交換し合い、共通認識のもと、学校でも家庭でも指導に当たることができるようになった。その結果、昨年度に比べ、服装や身だしなみ等が改善され、そのことを子どもはもちろん保護者へも様々な機会に成果として伝えてきた。

しかし、当初8割以上の家庭から寄せられていた返信も回を重ねるごとにその数が徐々に減少してきている。この減少を食い止め、引き続き保護者から多くの意見や要望を入手できるような取組が今後の課題となった。この学校では、今後も子どものよさを認め、広く紹介するとともに、学校の抱える新たな課題に対しても、保護者・地域住民と共通認識が図れるよう、情報発信の一層の充実に取り組むこととしている。

《返信欄の内容》

先日発行しました生徒指導だよりの返信につきましては、予想をはるかに上回るコメントをいただき、今年度の生徒指導方針へのご賛同やご支援の内容を拝見し、とても心強く感じました。
これからも、先日PTA総会にて公言しました「月刊」を目指しがんばって発行していきたいと思っております。
(次回、全校集会は5月21日を予定しています。)

《質問について》

Q：改善指導をしてもなおらない生徒には、どう対応されるのでしょうか？

A：学年を中心として継続的な指導をおこなっていきます。さらに、今後の全校集会において髪型の改善が見られない生徒については、保護者宛にその旨の文書を配布し改善をお願いします。

Q：頭髪の基準の詳細を教えてください。

A：頭髪についての規定

<男子>前髪は眉毛までの長さ。

横髪は耳が隠れない長さ

後ろ髪は襟元にかからない長さ。

<女子>前髪は眉毛までの長さ。または、隠れないようにサイドでピンで留める。

長い髪(肩にかかる長さ)は耳の後ろで二箇所にも束ねるか、後頭部の真ん中で一つに束ねるようにする。

束ねるゴムも紺色や黒や茶色の目立たないものを使用する。

(束ね方は基本的に華美になつたり、お洒落を意識した束ね方をしない。)

【共通】染める、パーマ、眉の加工、流行のファッション、整髪香料等禁止。

リップクリーム、制汗剤、日焼け止めは無香料、無色を使用。

3-4 保護者への情報提供のあり方

保護者には、様々なコミュニケーション・メディアによる情報提供の機会があり、学校に足を運ぶことも多い。また、担任をはじめとして、教職員との直接の対話の機会も設けられている。一般的に保護者は、わが子を中心として物事を考えがちである。しかし、「保護者とともに創る開かれた学校」をめざすためには、保護者に学校が担う役割を理解してもらい、教職員と同じ視点をもってもらうことが大切になってくる。行事や生活の様子といった日々の具体的な情報とあわせて、教育方針や願い、めざしているものが何であるかをしっかりと伝えるべきである。また、これらの情報は年度当初だけではなく、日頃の取組と関連付けながら、その意義や価値を理解してもらう努力を続けていくことが大切である。

保護者からのニーズの高い行事予定や学校生活の様子などは、月ごとや教育活動の節目ごとに情報提供を

行っていきたい。このような情報は、広く共通に伝えることができ、何度でも繰り返し見ることができる紙媒体やホームページなどの通信型メディアが適している。紙媒体による情報提供の場合、対象は保護者・地域住民等、範囲が限られるが、慣れ親しんだメディアであるだけに安心感がある。

3-5 地域住民への情報提供

保護者に比べ、地域住民に対する情報提供の機会はあまり多くはない。年に数回の学校公開や行事への参加、学校だより等の配布や回覧等が行われているが、「学校へ行きにくい」「学校が何をしているかがよく分からない」という声を耳にすることがある。子や孫が学校に通っていない地域住民にとっては、特に学校とのかかわりがない限り、学校は見えにくい存在である。

しかし、学校だよりを自治会で回覧して読んでいる地域住民が、学校が行っている行事等について比較的良好に知っていて、学校のことが地域で話題になるということも事実である。学校に足を向ける機会は少なくとも、地域住民は自分の住む地域の学校に確かな関心をもっている。

そこで、地域住民に対しては、学校行事等の活動の様子を伝えたり、様々な学校行事への参加の呼びかけたりすることも大切な情報提供の1つである。また、学校の特色ある行事として定着し、毎年参加を呼びかけている行事は、地域住民も期待し、楽しみにしていることが多い。また、そうした行事をとおして子どもたちと直接かかわり、一緒に活動を行ったり教えたりすることは、学校や子どもたちに対する理解を深める上でも大きな意義をもつ。ゲストティーチャーや学校支援ボランティアとして学校にかかわる地域住民は、そう多くはないが、こうした人を通じて学校の様子が地域に伝わる効果については、大いに期待できる。

ゲストティーチャーや学校支援ボランティアとして、学校が地域住民の力を求めることは必要なことであるが、逆に学校から地域に対して貢献できることをアピールすることも大切なことである。地域の行事に子どもたちや教職員が参加したり、地域のボランティア活動に取り組んだりするなど、学校が地域に貢献することで、学校への理解は一層進み、連携・協働の関係が一層強固なものになっていく。

本来、学校の教育活動は学校の中だけに留まるものではない。校外での活動を積極的にを行い、地域住民に子どもたちの学ぶ姿を見せることで、学校訪問の機会の少ない地域住民に対しても、子どもたちのよさや学校の取組を知らせることが可能となる。

おわりに

子どもの健全な発達を保障するためには、学校・家庭・地域それぞれがその教育機能を十分に発揮しながら、互いに心を開き、協力・協働し合うことが重要である。そのため、保護者や地域の方々に積極的に学校行事や授業に参加してもらったり、子どもたちが地域に出かけて学習したりして、子どもの成長を共有できる開かれた学校づくりをめざしていけたらと考える。また、このような学校の取組を学校だより等でも積極的に地域に発信し、学校が地域に開いていく姿勢をしっかりと示していくことで、家庭や地域から「学校応援団」としての多くの支援や協力を得られるよう期待したいところである。

参考文献

文部科学省：学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議（第8回）配付資料「地域とともにある学校づくり」，2011.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/078/shiryo/attach/1307680.htm

和歌山県教育委員会：「開かれた学校づくり教職員ガイドブック 地域とつながる元気な学校」，2010.